

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501509		
法人名	有限会社 二神		
事業所名	グループホーム コロナ (2)		
所在地	津市大里窪田町1706-26		
自己評価作成日	平成27年8月3日	評価結果市町村受理日	平成27年10月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470501509-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 8 月 19 日 (水)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入居者の健康管理 2. 入居者の生活の質(楽しみ等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し入った住宅街に位置しており、近くに畑や田んぼがあり自然と四季を肌で感じながら過ごせる長閑な環境にある。長年地域医療に携わってきた母体の医療法人『二神クリニック』の代表が、今後ますます認知症の方の増加や高齢化が進むなか、医療面だけでは地域の高齢者を支えることは困難との思いから、平成16年に介護・福祉と連携したなかで認知症高齢者の生活支援と合わせ地域貢献を目的に2ユニットの事業所を開設された。『地域に密着し、愛情を持って介護する』の理念を全ての職員が共有し、日々の生活では、利用者個々の尊厳と愛情を持って支援するを念頭に置き、常に笑顔と優しい声掛け等で利用者本位のペースに合わせた支援がされている。特に医療面では、母体の『二神クリニック』の代表(医師)が、定期的には2週間毎の往診と毎日朝夕事業所に立ち寄られ、全ての利用者は代表(医師)のファンであり握手しながら対話し健康状態を見ていることから、全ての利用者は元気で明るく、表情も豊かであり安心して過ごしている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム コロナの理念は、「地域に密着し愛情を持って介護する」であり、管理者及び職員はその理念を共有し、日々実践しています。	理念は、職員や家族が目に見る玄関や居間等に掲げ、関係者が共有できるようにしている。日々の実践では、自然と地域の中で楽しく暮らしが出来るように、地域と家族との連携を深め常に笑顔で愛情を持っての支援がされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方と挨拶を交わしたり、日常の話をしたり、季節の野菜を頂いたり、草取りも一緒にさせていただきます。また、自治会長も運営会議に出席してもらっています。	近所の農家からは野菜の差し入れがあり、散歩の際には地域の方と気軽に挨拶している。地域の方もメンバーになっている団体が定期的に踊や歌のボランティアに来てくれる。又、自治会に機関紙『コロナ』通信を配布、地域の運動会に参加する等地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ通信を通じて、自治会長に現状をお伝えし、認知症の家族がみえたら、相談に乗らせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に行う運営会議には、地域の自治会長や市役所の関係者、地域包括センター、民生委員の人々も参加してもらい、意見を聞かせてもらっています。。	会議は行政、地域包括、自治会長、民生委員、医師、利用者、職員等の参加で隔月毎に開催し、事業所の報告と合わせ職員が毎回一つの議題(テーマ)を提案し、参加者の意見を聞き運営に活かしている。行政と地域包括からは、毎回ケアの向上と運営に関する指導をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者を運営推進会議に招き、事業所の実情を積極的に伝え、意見を聞き、協力関係を築くよう努力しています。	行政、地域包括とは運営推進会議の際に情報交換している。又、法人の代表者は、市の医師会の理事であり介護保険サービス部門の責任者であることから、市とは事業所の実情報告や相談事は常に情報交換され連携が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に一回、虐待、身体拘束について話し合い、禁止の対象となることはしていないことを、確認しあっています。。	身体拘束に係るマニュアルを作成し、毎月開催のケース会議、隔月に開催の身体拘束防止委員会で話し合い(勉強会)をしている。現状ではベッド柵やつなぎ服の取扱について皆で話し合いをする予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日、職員どうして、虐待のないことを確認し、また、虐待に当たる行為は絶対しないよう常に注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度に該当する入居者はいないので、話し合いはしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書とともに、契約内容についても十分説明し、理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族の希望については、面会時に要望や意見を聞かせてもらい、あまり面会に来ることが出来ない家族には、電話で近況報告をし、意見を聞いています。	家族には、毎月発行の『コロナ』通信で事業所での暮らしの様子を報告し、面会時や隔月の家族との食事会時に、法人代表者とは利用料金を持参してもらった時に直接家族から意見や要望を聞き入れ運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	隔月の運営推進会議には職員も出席しており、職員の意見を聞く機会を設けています。	法人代表者と管理者、職員とのコミュニケーションは頗る良く、気軽に意見や要望が言える環境にあり、法人代表とは、毎日朝夕の立ち寄り時、2週間毎の往診時に多くのアイデア出され、中でもレクリエーションの企画(生け花教室、折り紙教室、居室の表札等)が実践され、ケアの向上意欲は高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境は整備されています。職員は入居者に対して意欲を持って取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年も認知症介護実践者研修に参加し、そこで学んだ知識を他の職員にも伝えて、ともに向上していくように、努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他の事業所の運営会議に誘われ、出席し、他との交流を深める様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを尊重しながら、本人との信頼関係を築くよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の本人の様子を十分に聞かせてもらい、入居されてからの本人の様子を、必要に応じて電話して、家族との信頼関係を築くように、努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向を聞きながら、ケース会議を早めに関き、必要としている支援を見極めて対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできることは、できるだけ一緒にして、教えてもらえることは、教えてもらって、良い関係を築いています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い方が入居された時、遠方にいる家族と密に連絡を取り、家族との触れ合いを持っていただくよう支援しています。その他にも、外出や外食をされる家族もみえ、ともに本人を支えています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の古くからの知人や親せきの方の面会を積極的に行き、入居前の生活ぶりをきかせてもらっています。	利用者も高齢となり、入居前の中広い馴染みの関係を継続することは難しくなっているが、家族や馴染みの方は何時でも自由に面会できるように心掛けている。家族の協力を得ながら自宅や美容院、墓参り等馴染みの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のコップやお膳など、歩ける方は車いすの方やあまり歩けない方の分を台所へはこんでくれたりして、支え合っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気になり、退居された入居者が入院している病院にお見舞いに行き、その様子を管理者が職員に伝えたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションをとり、外出や買い物、帰宅などの希望があれば、家族に協力してもらっています。また、意思疎通が困難な場合は、その人が笑顔になれるような暮らし方を検討しています。	常に利用者とのコミュニケーションを大切にし、職員と一対一になる入浴時にゆっくり話を聴きながら、又、その日の体調や表情、しぐさ等から思いや意向を把握し、申し送り帳に記入のうえミーティングで話し合い全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族と面談し、アセスメントをとって把握しています。また、入居前のケアマネから話を聞いたり、店員の場合はサマリーを頂き、把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテにその日の様子や参加した事等記入しています。バイタルは毎日測り、顔色や表情の変化に留意して見守っています。また、できることを伸ばしながら、一人一人の能力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員間で話し合い、意見を反映し、本人の気持ちを確認し、時には家族やドクターに相談しています。月1回ケース会議を開いています。	毎月開催のケア会議(ケア計画見直しカンファレンス)で、ケア計画の実践状況を意見交換(モニタリング)し、利用者毎には3ヶ月毎にモニタリングを総括し、家族と医師の意見を反映した計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテや業務日誌に、その人の1日の様子や健康状態を記録し、変化や異常があればドクターに報告しています。申し送りの時に職員間で問題点を話し合い、ケアの方法を随時見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪に行けない人には、出張美容に来てもらったり、介護用品や雑貨等、家族の要望があれば、ホームで注文しています。他科受診の希望があり、家族が付き添えないときは、職員が付き添っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームはのどかな田園住宅地域なので、散歩の時に田植えの様子や畑の作物等を見たり、農作業をしている地域の人達と話したり、収穫物を頂いたりして交流しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営者が医師なので、入居者の状態の異常を報告し、指示をあおぎ、整形外科や歯科に行かれる方は家族や管理者、職員と一緒に受診しています。	家族の希望と同意の下、全ての利用者は母体の『二神クリニック』がかかりつけ医となっている。定期的な往診は隔週であるが、毎日朝夕に医師が利用者の健康状態を見に立ち寄り、緊急時24時間対応可能、訪問看護は週1回あり、安心して適切な医療を受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の訪問の際、介護職員は気づいた点を報告し、適切な治療や看護が受けられています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	経営者が医師なので、病院関係者との連絡や情報交換は、緊密にできています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した入居者は家族の理解のもとで、適切な処置を行っています。また、入居の際には、十分な説明を行っています。	家族には契約時に終末期に対する指針を説明している。利用者が重度化や終末期の状態になった時には家族と相談し、家族の希望があれば、終末期の医療対応確認票を説明のうえ同意を得て、かかりつけ医師の判断により、家族が望む看取りの支援をする方針であり、職員も同じ思いであり開設当初から多くの見取りの介護支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的におこない、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から、地域の方々、自治会長にお願いしています。ホームを避難所に提供することも伝えてあります。なお、避難訓練の際には地域の方々にも声をかけ、時には参加してもらっています。	年2回地元消防署の指導の下、夜間も想定した防火、防災、避難訓練を行っている。訓練の際自治会長を通じて地域の方の参加(協力)をお願いしている。災害時に事業所を避難場所に提供したり、水や食料も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人個人の性格を把握し、プライドを傷つけることなく、人格を尊重する言葉かけをするよう気を付けています。	利用者の人格を尊重し、性格や好み、表情を把握のうえ、排泄、入浴、言葉遣い等気持ちを害しないケアに心掛けている。法人代表者からは職員に対し、特に利用者の個人情報について守秘義務が徹底されている。居間や居室の窓が透明ガラスで中の様子が見えることが少し気にかかる。	居間は皆のプライベート空間であり、居室については利用者個々のプライベート空間であることから、透明の窓ガラスには必要な時にはカーテン等、又、居室の玄関引き戸の開放時にのれん等の設置が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者に我慢を強いることのないように、職員とのコミュニケーションを通して希望を聞き、どのようにしたいかと、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が一人一人の入居者とコミュニケーションを大切にすることにより、入居者のペースや希望に基づきレクリエーションやドライブなどの支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得て、女性の方で美容院はパーマをかけに行かれる方もおり、今日着たい服を身に付けてもらったり、化粧するなど、一人一人の好みに合ったおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いのできる方には、職員と一緒に配膳準備をして頂き、メニューの希望を聞いたり、相談したりして決め、楽しく食事ができるようにしています。	食事は目饗た美味しいと言われるように、二つのユニット毎に利用者の好みを聞きながら、毎日職員が献立し必要な食材を調達(時々地域の人や職員から野菜等の差し入れがある)して調理している。利用者も簡単な調理の下ごしらえをし、食事は職員も一緒に同じテーブルでの楽しい食事タイムとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、形状等、各個人の状態に合わせています。食事量をチェックして、低栄養にならないように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、誘導をし、見守り介助をして、本人の力に応じた口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを職員のみならず共有し声掛け誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っています。	利用者の平均年齢も86.2歳となり、自立でのトイレ排泄出来る方は少なく、大半の方はハビリティパンツ型オムツを使っているが、排泄記録と伴に日々の見守り、寄り添うケアをすることで、適時の誘導でトイレでの排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動や十分な水分補給を心掛け、日々の排便記録をつけて、便秘の予防に気を付けています。また、便秘が続く入居者には必要な下剤の投与をドクターの指示で行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、自分一人で入浴できる入居者がいないので、月、水、金と曜日を決め入浴介助をしているが、希望があれば、いつでも入浴できる状態にあります。	各ユニットに個浴の浴槽が2カ所設置され、毎日の入浴も可能であるが、現状は毎日入浴の希望がないので、週3回(月、水、金)の入浴となっている。入浴が嫌いな方には無理強いしないで気長に説得し、ゆっくり、ゆっつりの入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は終日解放してあり、横になって休みたい時自由に休息できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、バイタルチェックや全身状態の観察を行い、服薬管理をしています。また、各入居者が服薬を終了するまで見守りを行っています。症状に変化があれば随時ドクターに指示をあおいでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好みや能力に合わせてはりあいや喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はホームの近くを散歩したり、買い物に出かけたり、時々公園や海にドライブに行く等の支援を行っています。最近ではホームでキュウリを植えたので、水やりや収穫するため、戸外にでています。	真夏・真冬を除き陽気の良い時期には毎日、近場の散歩と玄関先での外気浴をしている。ドライブを兼ね花見(西源寺の桜・結城神社の梅)や買い物、又、職員家の協力でみかん狩り、タケノコ掘りを楽しむ等多くの外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、自分で管理できない方ばかりなので、必要に応じてホームで預かっているお小遣いからつかってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月面会に来て頂いているので、緊急以外施設の電話を使用している方はみえませんが、自立している方は携帯電話を使用して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年を通して、イベント、行事を行い、写真、飾りつけ作品等を貼り、入居者みんなに楽しんで頂けるように工夫しています。	二つのユニットとも居間兼食堂は広くて明るく開放的であり、その他の空間全て掃除が行届き整理整頓されている。居間のテレビの前には座り心地良いソファがあり、昼食後は楽しくおしゃべりしながら寛いでいる。職員や利用者の家族が季節の生花が届けられ、その生花を使って利用者が生け花をアクティビティ活動として行い、玄関や居間に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、1人用のソファや、2人、3人用ソファオーを入居者の人数以上に配置しており、入居者はテレビを見たり入居者同士で話をしたり、自由に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内を転倒防止に留意したうえで、本人や家族と相談し、本人が居心地良く、安心して過ごせるよう工夫しています。	各居室とも整理整頓されており、介護用のベッド、洗面台、クローゼット等が設置されている。それぞれの使い慣れた衣装ケースや布団、家電や小物が持ち込まれ、壁やタンスの上にお気に入りの写真や飾り付けがあり快適に過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には手すりを配置し、車いすや歩行器等、一人一人の状態に応じた力を大切に、安全で自立した生活が送れるよう工夫しています。		